慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済地理学に於ける文化環境観察の手続きに就いて
Sub Title	
Author	小島, 栄次
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1938
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.32, No.5 (1938. 5) ,p.633(69)- 656(92)
JaLC DOI	10.14991/001.19380501-0069
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19380501-0069

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

對した同様、新市域に對する中心的機能を示してゐる。

以上亂の項に示した問題に對しては、未だ一應の暗示的解釋を下したのみで、更に檢討して見る必要のあるは明かである。なほ論ず可き問題は多いが本稿の序説的性質に從つて、此の程度に止める。

結　語

本稿は大都市郊外研究の序説として執筆した。故に、なほ詳しく論じ檢討し調査すべきものに就いて不穿鑿、不注意、不明確の點があるを免れない。殊に本稿では文士其の他の回想記や小説作品等を材料として取扱つた。小説其の他が都市社會學上の有力な資料となるのは既に認められてゐる。此の意味で、若干の疑問はあらうが、花袋、漱石、荷風、万太郎、挿雲、時雨の諸氏の作品について、手に觸れ眼に當つた所を利用した。是等の人々の記錄が何れ程眞實であるか檢討する必要がある。しかし、今回利用したものゝ内、明治末又は大正年間に關するものでは、大體筆者自らの見聞にふれる所も少くない。此の點では比較的に安心して利用する事が出來た。

なほ上ぐ可き資料で缺いたものが少くない。例へば住宅難史に就いても當然檢討する必要があり、交通機關其の他の資料を求めねばならなかつた。唯、其の餘裕が無かつたのと、本稿の序説的性質とに基いて、其等は別の機會に讓り度いと思ふ。了諒を乞ふ所以である。（昭和十三年四月二十四日稿了）

經濟地理學に於ける文化環境觀察の手續きに就いて

小島榮次

はしがき

地理的環境は自然環境と文化（或は社會）環境とから成る。前者は經濟現象を圍繞する外界の自然であり、後者は社會生活の所産にして特定の經濟現象にとり環境たる性質を持つものである。地理的環境が何故この兩者に分析されねばならぬか、また自然環境觀察は如何なる手續きの下に行はるべきかに就いては、不十分乍ら既に本誌上に說いたところである。（第三十卷第一號所載「地理學の本質と地理的環境に就いて」同第九號所載「經濟地理學に於ける自然環境觀察の意義及び手續きに就いて」參照）そこで順序として次に文化環境觀察の手續きを考察せねばならない。然し乍ら以下述ぶるところに依つて明かなるが如く、文化環境の分析は至難な仕事であり、到底淺學非才なる筆者がこれをなし得ると思はない。それにも拘らず敢へてこゝに掲げる理由は、一に讀者諸賢の示敎を俟つて筆者の蒙を開かんとする爲めに他ならない。

一　文化環境の諸要素

C. C. Huntington 及び Fred A. Carlson はその共著 The geographic basis of society, New York, 1933. に於いて、主として自然と人間生活との關係を論じて居るが、環境を構成する要素として、氣候・地形・土壤・等と共に、「文化的諸要素」を認めて居る。即ち人口・人種・民族の分布狀態は一人或は一團の行動にとつて環境となるし、人間の作つた運河・鐵道・橋梁・地下鐵道・隧道・都市・政治的境界等の分布狀態も、同樣に人間行動に影響を及ぼす。例へば「强力な人種が近隣に在ることは、弱者の自由に脅威を與へ、その存在をすら危くする。從つて弱者は國防に備へねばならず、抗戰するか或は貢物を捧げるか、或はより好ましからざる乃至はより到達困難なる地域に移住して隷屬或は絶滅の運命を避けるかせねばならぬ。」(p. 503) 斯くして環境を構成する文化的諸要素は、人間及び人間の作つた環境 (man-made environment) の兩者に分けられる。然し乍らこれ等文化的諸要素相互間の關聯に就いては、何も說明を與へて居ない。

また Bruno Dietrich, Grundzüge der allgemeinen Wirtschaftsgeographie, Berlin, 1927. は、政治的空間・社會構造・交通事業を、地形・土壤・水系・氣候・動植物・地下埋藏物等と共に環境として取上げて居るが、それにも拘らず文化環境の構成諸要素一般に就いて特に考察を行つて居ない。更にまた川西正鑑教授はその大著「經濟地理學原理」に於いて、機械及び動力の發明・交通機關の發展・資本を「文化環象」として論じて居られるが、この場合にも「文化環象」を構成する諸要素一般に就いて、特に考察を加へられて居ない。

これ等諸家に依り文化環境の要素として擧げられて居るものは、筆者の場合に於いても明かに斯かるものとして認めることが出來る。然し乍ら吾々がこれ等を文化環境の諸要素として擧げ得るが爲めには、抑々文化環境が如何なる要素から如何に構成されて居るかを先づ明かにせねばならない。

度々繰返した通り文化環境とは、特定の經濟現象を取り圍む地理的環境のうち人間生活の所產たる部分である。換言すれば特定の經濟現象の地域的分布を決定する諸要因のうち、前揭の諸家が擧げて居るやうな諸種の人間生活の所產である。從つて或る經濟現象にとつて特に重要な意義を持つ環境要素として考へられるものが、他の經濟現象にとつてはさ程重要な關係を持たぬ場合もあるだらうし、特定の經濟現象が他の經濟現象にとつて環境要素をなす場合もある。人口・交通機關・資本の分布の如きは、すべての經濟現象に對して重要な影響を與へるものであるが、特定の經濟現象にとつての重要な環境要素がこれ等のみに限らぬことは明かである。すべての社會現象は直接或は間接に關聯し合つて居るのだから、特定の經濟現象の地域的分布決定に關係する要因即ち環境要素も、殆ど無數と云つて差閒なからう。

さて地理學は諸地域間に於ける社會現象の差異に注目することから出發する。從つて一定時點に於いての各地域間の比較が必然的に行はれるのであつて、各地域に於ける社會現象の時々刻々の變化を取扱ふものでなく、平均的な乃至は恒常的な狀態をのみ取扱ふことになる。變化・動搖にしてもそれが平均した狀態或は一定した傾向を指示する場合にのみ取扱はれる。斯くして經濟地理的研究に於いても、その取扱ふ經濟現象が斯かる範圍內に限定される。例へば農產額は氣象その他の變化に應じて年々相違することが普通であるし、輸出入品に就いても年々その額

に相違を生ずることが普通であるが、これ等の年々の相違は、それが農產額或は輸出入額の增大或は減少の傾向を指示する場合か、或はまた各地域間に就いて斯かる相違の幅或は頻度を比較する場合にのみ、問題とされる。從つて文化環境要素たるべき諸現象も亦、平均狀態或は恒常的な狀態に於いて考察される。而して他の條件が等しい限り、比較的に一層固定的不變的なもの程、環境要素としての重要性が大きいことは明かであるが、運河・道路・港灣・鐵道等は、外形上比較的に最も固定的なものであつて、その點に於いては自然環境を構成する諸要素に類似する。從つて文化環境要素としてこれ等に先づ注目される。然し乍ら外形上では假に不變であつても、經濟生活の變化に伴つて、これ等の環境としての意義が變化し得ることは云ふまでもなく、單に外形上の固定性のみを以つて環境要素としての重要性を判斷することは出來ない。民族の分布・都市の分布の如き、或は一國の社會組織とか經濟的發展の水準とかの如きは、外形上では運河や道路の如き固定性を持たぬが如くであるが、それにも拘らずこれ等のものの變化は一般に徐々としか起こらず、それが存在して居る間は、やはり環境要素として經濟現象の分布に重要な影響を與へる。一國の政治的境界の如きも、國內の經濟現象に極めて大なる影響を與へる場合が多い。斯くして文化環境の構成要素は、單に外形上自然に類似した固定性を有するものばかりでなく、一般に社會現象のうちで固定的な性質を持つものを含むのである。

然し乍ら斯かる固定性を持つ社會現象のすべてが、特定の經濟現象にとつての環境要素となるのではない。特定の經濟現象と特に關聯するもののみが、環境要素となるのである。例へば日本の米產額にとつて、個々の農村に於ける米作技術そのものは環境要素ではない。全國に於ける平均的な米作技術乃至はせいぐ〳〵關東・九州の如きより廣範圍の地區に於ける平均的技術が環境要素となる。何となれば日本の米產額にとつては、全國の平均的米作技術乃至は斯かる大地區內の平均的技術が關聯を持つのであつて、個々の農村に於ける技術そのものとしては關聯を持たないのである。

要するに人間生活の所產のうちで固定的性質を持ち、經濟現象の地域的分布を決定する原因の一部となるものが、平均的狀態に於いて考察される場合に、それ等はその特定の經濟現象にとつての文化環境を構成する要素となるのである。

二　文化環境の構成とその分析

特定の經濟現象に對する文化環境の諸要素が如何に多數列擧され、それ等とその經濟現象との關係が個々に考究されたとしても、諸要素相互間の比較的重要性從つてまたそれ等相互間の關係が明かにされぬ限り、經濟現象の地域的分布に對する說明は、極めて不十分でしかあり得ない。蓋し特定の經濟現象とそれに對する個々の環境要素との關聯が明かにされたとしても、全體としての文化環境との關聯は全く不明だからである。

ところで文化環境諸要素間の比較的重要性及び相互關係は、個々の場合の事實關係を明かにして始めてこれを確知し得ることは云ふまでもない。然し乍ら他方に於いて、文化環境の諸要素が人間生活の所產である以上は、その間に自ら或る秩序がある筈である。人間生活の部分々々はそのすべてが相互的關聯を持つて居り、全體として一定

の體制をなして居る。從つてその人間生活の所產である諸種の建設物や社會制度は、全體としてやはり一定の體制を持つて居る筈であり、相互に關聯なく單に並存して居るに過ぎぬものではない。これ等の全體は、相互的關聯を持つ結合體をなして居る。從つて一地域に於いてのすべての經濟現象に對する文化環境要素の總和に就いて、吾々はその「構成」を考へることが出來る。而して個々の經濟現象に對する文化環境の諸要素も、當然に相互的關聯を持ちつゝ相結合して個々の經濟現象に對する環境を「構成」して居るのだが、この後者の構成は前者の構成を基底とするものであつて、根本的には前者のそれに從ふのである。例へば日本の工業と農業とは、夫々の自然環境及び文化環境を持つて居る。これ等及びその他一切の經濟現象に對する文化環境要素の總和として、日本の經濟狀態全般及び經濟外の社會諸現象を考へることが出來る。さて工業にとつての環境要素として、資本は極めて重大な役割を勤めて居るが、農業にとつての環境要素としては、それ程重大な役割を勤めて居ない。然し乍ら季節風地帶に屬する他の諸國に比して、肥料・農具・その他に遙かに多くの資本が投下されて居るのは、やはり日本に於ける資本の蓄積・技術の進歩が高い水準に達して居るからに他ならない。斯くして吾々にとつては、個々の經濟現象の文化環境要素を觀察することと共に、一地域のすべての經濟現象の環境要素の總和を觀察することが必要になる。何となればこれ等二種の觀察は、孰れも他の一方を欠いては十分にこれを行ふことが出來ぬからである。

この觀察に際しては、當然その對象がそれを構成する諸要素に分析されることを必要とするが、この分析に伴つて環境諸要素相互間の關聯及びそれ等の比較的重要性も明かにされる筈である。單に運河や鐵道の分布・或は都市の分布・等の個々の環境要素を相互に無關係に觀察するだけでは、特定經濟現象の地域的分布に正しい說明を與へることが結局不可能であるが、諸要素間の相互的關聯從つてまたその比較的重要性を明かにすることに依つて、これが可能となる。例へば日本に工業原料品の產出が少いにも拘らず工業の發展を見たのは何故かといふ問題に對しても、劣勢な原料品產業といふ環境要素よりも、他の何等かの要素例へば蓄積された資本・進步した技術・近接する市場・等の作用が强力だつたと見ることに依つて、始めて回答が可能になる。

然らば文化環境の構成は如何に分析されるかと云ふに、抑〻文化環境は人間生活の所產からなるのだから、その構成も社會生活の構成に準ずるものでなければならぬ。即ち社會生活に於ける基本的部分に關する諸事實にして環境要素となるものが、同樣に環境の構成に於いても基本的部分を占める。社會生活の基本的部分は吾々の生活を維持する物質的基礎の獲得維持に關する諸事實即ち經濟に關する諸事實である。從つて文化環境の基本的部分も、同樣に經濟に關する諸事實にして環境要素たるものでなければならぬ。次に社會生活の行はれる所には、必ず社會集團に對する統治即ち廣義に於ける政治活動を伴ふ。而してこの政治活動は、究極的には當然に社會生活の基本的部分であるところの經濟生活上の必要に依つて規制されるが、それにも拘らず政治活動は若干の固定的性質を備ふるに至り、逆に經濟生活に影響を及ぼすに至る。斯くの如き固定性を持つところの政治に關する諸事實が即ち文化環境の構成要素となるのである。更にまた社會生活の行はれるところには諸種の社會集團が形成されるが、經濟生活の爲めの集團及び政治活動の爲めの集團は勿論のこと、血族的な集團や地域的な集團にしても、やはり究極的に經濟

生活上の必要から規制され、同時に政治に關する諸要素からも影響を受ける。然し乍ら血族的集團及び地域的集團は、若干の固定性を備ふるに至ると、これまた逆に經濟及び政治活動に影響を與へる。以上の社會生活の諸方面は、一社會の成員の精神生活にも根本的な影響を與へる。宗教とか道德とか、或は藝術とか科學とかは、いづれも經濟生活の必要に背くことは不可能である。然し乍らこれ等もまた若干の固定性を持つが爲めに、却つて經濟・政治・等の諸活動に影響を與へる場合が少くない。要するに文化環境の基本的部分が經濟生活に關する諸事實から成ることは疑ひないが、同時に他の部分も夫々社會制度として或る程度の固定性を持つに至ると、逆にこの基本的部分に影響を及ぼし得るのであり、その意味に於いてこれ等諸方面の事實をも環境要素として重要視せねばならぬのである。

斯くして文化環境は、先づ經濟生活に關する諸要素・政治生活に關する諸要素・集團生活に關する諸要素・並びに精神生活に關する諸要素に分析することが出來やう。これは社會生活を經濟・政治・集團・精神の四方面に分析する方法に準ずるものであることは云ふまでもない。元來社會生活は無數の諸事象から成る複雜極まりない構造を持つて居るのだから、その分析の如きは社會科學に於ける最重要の課題であると共に、最も困難な仕事であると云はねばならぬ。從つて右の如き分析は、要するに完全な分析方法が見出されるまでの暫定案に過ぎぬけれども、それにも拘らずこれ等四つの方面は、夫々判然と相違する分野を占めて居り、その相互的關聯の上に社會生活を構成して居ると考へられるが故に、少くとも一層十分なる分析への基礎となり得るであらう。

而して右の如き方式に基いて特定の經濟現象に對する文化環境をその構成要素に分析して觀察すると共に、一地域殊に一國に於ける文化環境要素の總和即ち一地域殊に一國の經濟狀態及び政治その他經濟外の諸方面にわたる觀察を同樣な手續を以つて行ふことに依り、特定の經濟現象とその文化環境との關聯を明かにすることが出來るであらう。何となれば特定の經濟現象に對する文化環境の構成は、その地域の文化環境要素の總和が持つ構成に依つて基礎づけられて居り、大小諸種の地域のうちでは國境を以つて圍まれた地域が最も基本的な意義を持つが故に、これ等の觀察を併せ行ふことに依つて、個々の經濟現象に對する文化環境を正しく把握することが出來るからである。

三　經濟生活に關する諸要素

特定の經濟現象を圍繞してその地域的分布を決定する文化環境諸要素のうち經濟生活に關するものは、最も基本的な意義を持つ。然らば經濟生活に關する諸事象のうち如何なるものが文化環境の要素となり得るかと云ふに、前述の如く若干の固定性を有するものはすべて環境要素となり得る。例へば一產業の分布狀態を考察する場合、その地域に於ける他產業の分布狀態即ちその地域の產業構成は環境の一部となり得る。然し乍らそれ等無數の經濟生活關係の諸事實のうちで恐らく最も重要な意義を持つ環境要素は、一地域殊に一國の經濟的發展の水準であらう。

一地域の經濟が或る水準に全く固定することはあり得ず、一般により高い水準へ昇る運動を續けて居り、戰敗その他の爲めにより低い水準に落ちる場合もあるのだが、それにも拘らず或る水準からより高い水準への移行も、一般に徐々として行はれ長期間を必要とする。從つてその間は實際上固定的な性質を持つのである。而してこの水準の如何は、主として資本の集積集中の程度及び技術進步の程度に依つて示されるが、この兩者の如何に依つて、一地

域の經濟現象がすべて根本的に規制されて來る。斯くして高度の水準にある地方は、諸産業中殊に工業の發展が著しく、その他の諸産業にしても、低水準にある地域と全く異なつた狀態に置かれる。例へば水産業にしても、資本主義的な企業の行はれる日本のそれと、小資本及び幼稚な技術に依存する支那のそれとの間には著しい相違があり、その相違がまた競爭上に於いて後者を劣勢ならしめるが爲めに、前者の一層の發展と後者の停滯萎微とを齎す。斯くして各國經濟の特殊性は、主としてこの經濟的發展の水準に於ける差異に基くと云つてよい。換言すれば世界各國が異なる程度の經濟的發展を遂げて居り、しかも自然的條件その他經濟外の諸條件を異にする結果として、夫々その經濟が現在の如き特殊性を持つて居ると云ふことが出來る。して見れば經濟的發展の水準の環境要素としての意義は最も重要であり、他の諸要素に對して基礎的な部分であると云はねばならぬ。

經濟生活に關する環境要素として次に重要なものは、一地域に於ける經濟生活に關する諸種の有形的施設である。例へば諸種の交通施設即ち道路・鐵道・水路・船舶・港灣・倉庫・等が、その地域に於ける經濟現象の分布に大なる影響を及ぼすことは、言を俟たぬところであらう。これ等の有形的施設の分布狀態は、根本的にはその地域の經濟的發展の水準に照應するものであるが、同時に他の諸條件の如何に從つて異なる。而してそれ等の完備はその地域の經濟的發展を助長し、その不備はこれを抑制することも明かである。交通施設は諸種の經濟現象を通じて、重要な環境要素となるものであるが、個々の經濟現象にとつては、この以外にまだ諸種の有形的施設を環境要素として擧げねばならぬ。例へば若干の工業の分布にとつて、發電所の分布狀態が重要な關聯を持つであらうし、また若干の商業にとつては、その商品の取引所その他の機關の分布狀態が、重要な關聯を持つであらう。但しこれ等は個々の經濟現象分布の原因として作用すると同時に、その結果として變化することも比較的に容易である。換言すれば環境要素として固定性が比較的に少いのであるが、それにも拘らず環境の一部を構成し得ることは疑ひない。

第三に經濟生活に關する環境要素として重要なるものは、他地域との經濟關係である。現代の經濟生活は一國・一大陸の如き廣範圍の地域にしても、或は一ケ村の如き小地域にしても、すべて他の地域との關聯に於いてその經濟生活を營んで居ることは云ふまでもない。而してこの地域間の經濟關係は、相當大なる程度の固定性を持ち、謂はゞ一地域の經濟構造の中に編み込まれて居る。而して地域間の經濟關係は先づ商品取引及び資本貸借の關係として現れるが、例へば日本の養蠶業の如き、最近に綿織物にその位地の讓るまで數十年の間、生糸が最主要輸出品として米國その他の市場に多量に輸出されて居たが故に、農村の重要産業となつて居たのである。斯くの如き關係は輸出入品産業のみに止まらない。輸出入品に關せざる他の産業にしてもすべて間接に影響を受けることは明かである。尤も生糸の輸出市場は過去に於ける官民の大なる努力に依つて開發されたものに相違ないが、それにも拘らずそれが確立された後は、明かに環境要素として作用し、歐米人の絹に對する嗜好の增加が、日本養蠶業の一層の發展を促した。從つて最近に於ける生糸輸出市場の漸減傾向は、農村經濟にとつて重大なる變化を生ぜしめざるを得ない。これと同樣な場合を一八八〇年代の丁抹農村に見出すことが出來る。即ちその頃に新世界からの廉價なる小麥の流入に依つて、丁抹小麥の輸出市場が全く奪はれてしまつた爲めに、同國農業は一時大なる窮狀に陷らざるを

得なかつた。その結果現在の如き畜産業國に轉じたのである。資本の貸借關係にしても、貸付側及び借入側の兩地域の經濟に重要な影響を及ぼし得る。殊に國際間の長期的投資は、多分の固定性を有すると共に、投資國と被投資國との間に於ける貿易關係その他に重要な影響を與へる。即ち被投資國はその資本を以つて投資國から商品を輸入する場合が多いし、時には諸種の特權を投資國に與へるのである。

近年に於ける國際經濟關係の著しい特色は、所謂經濟ブロックを單位とする自給自足經濟への傾向である。この傾向は次に述ぶる政治生活上の諸要素と密接な關聯を持つものであるが、他方これ等ブロック内の各國經濟に及ぼす影響は極めて大きい。即ちそれ等の國々の間に於ける貿易及び資本輸出入の狀態が、このブロック關係に依つて規制されるところが極めて大きいのである。例へば滿洲國に於ける重工業の顯著なる發展の如き、まさに斯かる事情の下に起つたことが明かである。而してブロック經濟は根底の深い政治・經濟・民族・等の諸關係の上に樹立されたもので、極めて鞏固な固定性を有し、從つて將來の經濟現象分布に對しても、大なる制約を行ふに相違ない。

四　政治生活に關する諸要素

社會生活には必然に統治活動即ち廣義に於ける政治活動を伴ふ。而してこの政治活動は、根本的には經濟生活の必要に應ずるものであるが、現代の複雜極まる社會に於いては、古代社會に於けるが如くこの關係が單純明確ではない。政治活動が經濟現象に影響する場合も多いのである。

政治生活に關する環境諸要素のうち最も主要な意義を持つものは、恐らく政治的境界殊に國境であらう。政治的境界は一つの地域を區劃し、殊に國境は經濟生活に於いても一應の境界を劃する。從つてそれが廣大な國土の周圍に引かれて居る場合と狹少な國土を圍込む場合とでは、その國内の經濟に著しい差異を生ぜしめる。例へば面積の大なる國は、小なる國に比して多種多量の資源を持つ場合が多く、從つてその經濟的發展と共に比較的に均整のとれた經濟構造が生じ得るに反して、小面積の國は經濟的發展が高度に達するに從つて益々偏つた經濟構造をとるやうになる。前者の例が米國であり後者の例が英國である。國境はまた首都や國防機關の配置を決定する重要な要因となり、從つて間接に國内經濟現象の分布に少からざる影響を及ぼす。一國内に於ける都市その他の政治的境界は、環境要素としての重要性が國境に比して遙かに小さい。然し乍らやはり環境要素たる性質を持ち得ることに變りはなく、地方自治權の比較的に大きい米國の諸州境界の如きに於いて殊に然りである。例へば會社に關する法規の緩やかなる若干の州に多數の會社が設立され、稅率の相違が各州間の産業分布に影響を與へて居る。

この最後の場合は、とりも直さず各州政府が異なつた産業助長政策をとる結果である。而して國際間の經濟現象分布に對しても、國家の産業保護或は振興政策が重大な關聯を持つことは云ふまでもない。斯くして各地域の政府當局がとる産業の保護乃至は振興政策が經濟現象分布に對する重要な環境要素の一つとなる。例へば保護關稅とか奬勵金の交附とかは、斯かる性質を持つものと考へてよからう。然し乍ら政府の産業政策は、環境要素としては比較的に固定性が薄弱であり、むしろ經濟現象分布の結果として見らるべき部分も多いのである。從つてその重要性は、政治的境界或は以下に述べる諸要素に比して、比較的に小さいと云つてよい。

さて第三には治安の維持及び國防の安全を目的として、政治が如何に行はれ而して如何なる成績を擧げて居るかゞ、一地域内の經濟現象分布に重大な影響を與へる。即ち治安が十分に維持されて居ない場合には、その地域の經濟的發展が阻碍されるのであつて、例へば支那經濟が近年まで停頓萎縮しつゝあつたことは、内亂の繼續及び匪賊の跳梁に基くところが極めて大きい。内亂は、黄河の堤防を始めとして多くの經濟生活上の有形施設を破壞し、戰費の調達の爲めに人民は苛酷な稅金と勞役を課せられ、しかも外國資本は、斯かる内亂の國へは容易に投下されないのである。加ふるに近世の支那が英國その他と戰つて常に敗北を蒙つて居ることも、明かに同國の經濟的發展を阻碍するところが大きい。他方に於いて國防及び治安維持の目的を以つて、鐵道とか軍隊の配置が決定される場合もあり、國防の强化は軍需産業を刺戟し、延いては一國産業全般にわたつて大なる影響を與へる。

第四には以上に述べた政治的境界・經濟政策・國防及び治安・等の政治生活上の諸事實に關聯する諸種の有形的施設例へば政廳・軍隊・等の配置が、一地域の經濟現象分布にとつて環境の一部を構成する。殊に大國の中央政府所在地や大規模な軍隊駐屯地は、多數の消費人口を持つことに依つて、若干の商業を始めとして局地的な工業及び食料品産業等を分布せしめる。而してこれ等の所在地を中心として交通機關が配置されるから、更にその沿線の産業を刺戟することになる。

第五に政治生活に關する環境諸要素中の重要なものとして、他地域との政治關係に屬するものを擧げねばならぬ。一地域はそれ自體の經濟生活を安全ならしめる爲めに、また他地域との經濟關係を保障する爲めに、他地域と政治的に結合する。佛蘭西が獨逸に備へてソ聯邦と同盟しチェッコスロヴァキアと親密な關係を結んで居るのは主として前者の場合に相當し、諸列强とその植民地との關係は概ね後者の場合に相當する。また日本と支那の關係の如きはこれ等兩者の場合を包含して居る。他方に於いて政治的に結合するのではなく、對立する關係もあることは云ふまでもない。獨逸と佛蘭西との關係を始め、斯かる對立關係は現在の世界到る處に見出される。而してこれ等の場合は主として國際間の政治關係に見られるところであるが、國民的統一の完成されてない國にあつては、國内諸地域間に於いても斯かる關係が見出される。事變以前の支那に於ける諸地域間の關係の如きそれである。而して國際間或は國内諸地域間の斯かる政治關係は、經濟現象の分布に諸種の影響を與へるが、就中植民地とその領有國との關係は最も大なる固定性を有し、且つまた經濟現象分布に對する影響も極めて大きい。植民地の經濟が全面的に本國に依つて指導され、本國の利益に從はさせられるのは普通に見られるところである。更にまた現在の如き國際的對立の激化した時代に於いては、各國が擧つて國防力の充實をはかつて居る事實が、國防資源の開發・その貿易・及び國防工業の分布・等に大なる影響を與へざるを得ない。

五　集團生活に關する諸要素

人間は諸種の集團をなして生活する。人間の生活は集團に依つてのみ可能であり、生活の内容は集團に依つてのみその豐富さを增すことが出來るからである。從つて文明の進歩と一層複雜多岐なる集團生活とが並行する。進歩した社會に於ける個人は、先づ家族の一員であると共に、民族・人種・等の血族的集團の一員であり、更にまた市町

村・國家・等の地域的集團や、職業・宗教・階級・その他に於ける無數の集團の一員である。これ等諸集團の發生・機能・形狀・等は、根本的にはすべて經濟生活上の必要に應ずるものであるが、それにも拘らず諸種集團のうちでその持續性の鞏固なるものは、却つて經濟現象の分布に諸種の影響を與へる。これ等集團の大きさ即ち集團に屬する人口數・これ等集團の夫々に特有な傳統・それに基く集團意識・等が大なる固定性を持つ場合には、本來それ等を生ぜしめた經濟生活に變化が起らうとしても、それ等の固定性の故に却つて經濟生活の變化を妨げる場合が生じ得るし、また一地域に住む人口に變化が生じ、異なつた習性を持つ民族が移住し來たつた場合の如く、逆にその地域の經濟現象分布に相違を生ぜしめることもあり得る。斯くして集團生活に關する若干の事實は、環境要素として考察されねばならない。但し集團がその目的を遂行する上に於いての機能に關する諸事實はこゝでは考察されない。何となれば經濟生活・政治生活・精神生活の三方面はいづれも集團生活を基底として行はれ、從つてこれ等三方面を考察する場合に、當然に諸種集團の機能の方面に關する考察が含まれるからである。こゝでは主として、集團の機能遂行上に於いて形成されるところの、集團の形狀特にその大きさと、集團成員の行動に於ける特色とが考察されることになる。

斯かる意味に於いての集團生活に關する環境要素の主要なるものは、恐らく民族・人種等の血族的集團生活に關するもの及び市町村・國家・等の地域的集團生活に關するものであらう。民族及び人種集團は、夫々特有の言語風俗を持ち、その衣食住生活に於いても、鞏固なる習性を持つて居る。その變更が極めて困難であり、從つてまた民族意識の根強いことは、多くの國々に於いて所謂少數民族問題を生ぜしめて居り、植民地に於いては土人の獨立運動を生ぜしめて居る。民族的或は人種的偏見が經濟的利害關係と結びつく場合には、民族或は人種問題は一層大なる重要性を持つ。例へば米國勞働者の日本移民排斥の如き、人種的偏見は經濟的利害關係と結びついて移民法を成立させた。この反對に若干の場合には、民族的或は人種的意識が、國境を越えて同一民族或は人種を結合せしめることに貢獻する場合もあり得る。獨墺關係に於いても日支關係に於いても、民族的或は人種的要素が强調されて居る。殊に猶太人の如きは、各國に分散居住するものが相結んで、同民族の鄕土を建設する運動を起して居り、既にパレスチナには多數の猶太人が歐米各國から來住して、その齎した近代的文化に依つて同地域に急激な變化を齎して居る。すべてこれ等の場合に於いて、經濟現象の地域的分布が影響を受けることは云ふまでもない。就中パレスチナの場合の如きは、民族或は人種の分布狀態が重要な環境要素を成すことを殊に明白に示して居る。同樣に濠洲・加奈陀・米國・等の如く近代に至つて移民に依り建設された國々に就いても、その經濟現象の分布にとつて、民族或は人種の分布狀態が重要な環境要素を成すのである。

次に諸種の地域的集團に就いては、先づその大きさ即ちそれ等集團に屬する人口數が、重要な環境要素として擧げられねばならぬ。蓋し市町村・國家・等の大小の諸種地域に於ける人口分布狀態は、主としてそれ等地域の經濟力の如何に依存するものであるが、勞働力及び消費力として經濟現象に直接的な關聯を持ち、しかも人口と勞働力及び消費力との關係は、一般には急激な變化を見ることが稀れだからである。換言すれば一地域の產業構成の急激な

る變化或は技術の劃期的進歩が生じた場合、或はまた戰勝・戰敗などに依つて生活標準に急激な變化が生じた場合には、人口にざしたる變化がなくとも經濟現象には相對的に著しい變化を生じ得るが、産業構成・技術・生活標準・その他の條件に著しい變化がない限り、同一の勞働力消費力を意味するし、人口の增減傾向は勞働力・消費力の增減傾向を示すと看做し得る。而して産業構成・技術・生活標準・等は、事實上一般に急激な變化を見ることは稀だから、人口と勞働力・消費力との關係はまづ固定的と見てよい。しかも人口の分布そのものも、一般には短期間にそれ程急激な變化を見ることはない。またかなりの變化を示す場合でも、單なる動搖ではなしに增減傾向をなすことも多く、或る程度の豫測を可能ならしめる。これ等の理由に依つて一地域の人口分布狀態は、經濟現象分布にとつての重要な環境要素として取扱はれることになる。

然し乍ら一國内の二地域はまだしもとして、二つの國の間ではその産業構成・技術・生活標準・等に著しい差異の存する場合がある。産業構成及び技術は、經濟生活に關する環境要素として既に擧げて置いた。人口の産業別構成や技術上の素養の如きは、それ等自體環境要素として多少の意義を持つが、むしろ一地域の産業構成や技術的進歩の水準を示す指標と看做さるべきである。例へば現在の日本は重工業の急速な膨脹に對して熟練勞働者の不足が痛切に感ぜられて居り、これは從來の産業別人口構成及び勞働者一般の技術的素養の程度の結果として生ぜしめられた現象であるが、然し乍ら産業構成にせよ技術にせよ、資本の各産業間の配置や機械工具の裝備狀態に主として依存するものであり、人口の産業別構成や技術的素養の水準の如きは、環境要素として比較的に小さい意義しか持たない。これに反して一地域人口の生活標準は、環境要素としての意義が頗る大きい。蓋し二國間の生活標準に於ける差異は勞働報酬の差異を齎す主要原因の一つであり、從つてその二國間の經濟上の競爭力を決定する重要な環境要素の一つである。生活標準に於ける各國間の差異は、主としてこれ等地域的集團が夫々特有な習俗・傳統を持つことから生じる。殊に生活標準を構成する主要々素たる食料品の如き、東洋と西洋諸國間に著しい相違が見られるが、この相違は容易に除去されない固定性を持つて居る。日本人が昔から米と魚肉を多く用ひ、小麥や獸肉を余り用ひなかつたのは、主として日本の自然的環境の結果であるが、西洋諸國との接觸や日本の經濟的發展從つてまた日本國民の生活標準が若干向上したにも拘らず、この習性は極めて徐々にしか變化しない。これは單に習性の根强さの爲めばかりでなく、その變化を困難ならしめる諸種の事情が存在するのであらうが、孰れにせよこの習性が一度確立されたことが、主要な要因であると云へやう。而して斯くの如き消費生活上の習性は、他の意味に於いても經濟現象分布の環境要素として作用することも疑ひない。例へば日本水産業の資本主義的な發展は、日本人の魚肉食といふ習性に依つて築かれた土臺即ち古來からの水産業へ、近代的技術と大資本とが、原料を自給し得る輸出品に乏しいといふ日本の特殊事情に依つて結びつけられた結果だと考へられる。

地域的集團が持つ特色は、右に擧げた點に關するもの以外にも、環境要素として作用するものが多いであらう。例へば一國内でも各都市或は農村は夫々若干の特色を備へて居り、その住民の行動にも著しい相違を生ぜしめる場合がある。また都市及び農村が如何なる配合狀態に於いて一地域に分布するかも、その地域の經濟現象に影響を及

ぼす。何となれば都市及び農村は夫々經濟上の特色を有し、從つて一地域に於けるその配合狀態の如何は、その地域の經濟現象をして或は都市的に傾かしめ或は農村的に傾かしめる。換言すれば前者の場合には農村が所謂近郊農業の性質を持ち、後者の場合には都市が農村的色彩を帶びるのである。更にまた國民集團に就いても、近來の國民主義思想の勃興と共に、所謂國民性なるものが益々强調される傾向がある。然し乍ら地域的集團に關する限り、右に擧げたやうに集團の大きさと、生活標準の相違に現れる消費生活上の習性の相違とが、最も主要なる環境要素であらう。

血族的集團及び地域的集團以外の諸種集團生活に關する事實も、環境要素たり得ることは云ふまでもない。例へば家族制度にしても、家長が子女の間に財產を均分する慣習が南阿聯邦その他に現存し、それが農村の人口過剩を齎して居ると云はれるが如き、本來は人口過少にて生產力の不足した農村に子女を引留めるといふ機能を果した制度かも知れないが、現在ではその本來の使命を失ひ乍らも未だに存續して居るのである。

六　精神生活に關する諸要素

こゝに精神生活と云ふのは、以上に述べた人間生活の各方面即ち經濟・政治・集團・等の各方面の生活に對して、必ずしもそれ等と直接的な關聯を持たずに行はれる生活であり、身體的活動よりも精神的活動を中心とする生活である。即ち宗教・道德・科學・藝術・等の諸方面の生活がこれに屬する。經濟・政治・集團・等の各方面の生活は、經濟思想・政治思想・集團意識・等、孰れも身體的活動と共に精神的活動を伴ふけれども、その中心は身體的活動にある。然るに宗教・道德・科學・藝術・等に於いては、すべての場合何等かの身體的活動を伴ふけれども、精神的活動を中心とする。さればこそこれ等諸方面の生活は、必ずしも經濟・政治・集團・等諸方面の生活と直接的關聯なくして行はれ得るのである。これ等精神生活も實際上は生活の方便として行はれる場合も多いが、それにしても猶精神活動が中心となることが普通であらう。これ等精神生活に於いて人間が主として望むところは、精神的安定であり精神的喜びであり精神的休息である。

然し乍ら宗教・道德・科學・藝術・等も、根本的にはやはり經濟生活に依つて規定される。且つまた現代に於いては、これ等精神生活が方便として行はれ或は利用される場合が多い。從つてその限りに於いて、これ等精神生活は經濟・政治の結果であつて原因でない。然し乍ら宗教・道德・科學・藝術・等が、それ等を規定した經濟的基礎の無くなつた後でも存續して、或る程度の固定性を持つやうになれば、その場合には逆に經濟及び政治生活に影響を與へ得る。斯くして若干の精神生活に關する事實は、環境要素となる。

斯かる意味に於いて最も重要なるものは、恐らく宗教であらう。宗教は人間の熱情を喚起する最も强烈な力を持つて居り、屢〻他の一切の慾望・感情の作用を全く無力ならしめることがある。從つて時に依つては、宗教上の事件が經濟及び政治に重大なる影響を與へるやうなことが起こる。歷史上その最も著しい場合は十字軍遠征であらう。支那農村に於いて墓地が大なる面積を占め、場所に依つては一村の面積の二分乃至九分にも達する所があると云はれ、農村の窮乏を一層甚しからしめて居るが、それにしても十字軍事件に比べれば、その重要性は比較にならぬ程

小さい。然し乍ら經濟的或は政治的利益の爲めに宗教が利用される時には、その影響は極めて重大となる。例へば英國は、印度人の間に於ける現世の快樂否定の宗教を奬勵することに依つて、その反抗心を鈍らせて居り、印度人内部に於いて回教・印度教・等の對立抗爭を行はしめることに依つて、印度人間の民族的統一を困難ならしめることに努めて居ると云はれる。更にまた地域を狹く限つて見る場合には、宗教上の聖地の如きはそれを中心として宗教都市を發生せしめ、その地方の經濟生活にも著しい影響を與へるのである。

七　結　び

上述して來たところで略ゞ明かな通り、文化環境とは社會生活に於ける諸事實の中で固定性を有する部分にして、且つまた當面の經濟現象の地域的分布を決定する原因の一部を成すものである。それが單なる社會現象の原因と相違する點は、その構成要素がすべて若干程度の固定性を有し、從つて單に現在のみならず將來の經濟現象分布へも影響するといふことである。然し乍ら上述したところで明かな通り、文化環境の構成は極めて複雜である。從つて社會生活のすべての方面が、右に述べたところに盡くされて居るわけではない。例へば娯樂とか教育とかも取扱はれて居らず、まだこの他にも多數擧げることが出來やう。然し乍ら最も基本的な部分は、以上述べたところで盡くされて居ると思ふ。特定の經濟現象に對する環境要素として、經濟・政治・集團・精神・等の各方面全部にわたつて關聯ある事實を求める場合もあらうし、その一部しか求める必要がない場合もあらう。然し孰れにしても、これ等の環境要素と當面の經濟現象との關係を明かにする爲めには、一環境要素の作用が他の要素の作用と、その重要性に於いて如何に比較されるかを調べねばならず、從つてまたそれ等要素相互間の關聯も明かにせねばならぬ。上述したところに依つて、この關聯を明かにしようとしたわけであるが、社會現象は余りに複雜多岐であつて、到底十分なる分析の如き筆者には不可能である。唯こゝで再び强調して置きたいことは、經濟生活が基本的意義を持つことに就いてゞあらう。政治生活に於ける要素中最も主要な國境の如きは、結局一國の武力及び經濟力の如何に依つて定まつて居るのである。古代に於いて技術が未だに幼稚な時代には、山岳・河川・森林・砂漠・等の如き地理學者の所謂自然的境界が主要部分を占めて居たらしい。而して經濟力の發展及び技術の進歩と共に、次第に所謂自然的環境に拘束される必要がなくなり、經濟力及び武力に相應する人工的境界が定められたのである。英國人が印度からヒマラヤを越えて西藏へ侵入して居ることから知られるやうに、現在の强國が持つ經濟力及び技術にとつては、自然的境界は殆ど無力のやうに見える。斯くして政治生活に就いて最も基本的な意義を持つ事實であるところの國境も、結局經濟生活に關する諸要素に依つて定められるのである。

集團生活に就いて最も基本的な事實である人口分布狀態や民族特有の習性、或はまた一國民の生活標準も、やはり同樣に經濟生活の諸要素から規定され、更に精神生活の方面に就いても同樣なことが云はれ得る。而して經濟生活に關する諸要素中では、資本の集積集中の程度及び技術進歩の程度に現れる經濟的發展の水準は最も基本的な意義を持つて居る。一地域に於ける諸產業分布の狀態・他の地域との經濟關係・等、すべて經濟的發展の水準と自然環境との如何に依つて定まると云べるのである。

文化環境諸要素の比較的重要性は、右の如き相互間の關聯に依つて定まると同時に、他方に於いては、固定性・持續性の大小の程度に依つて定まる。この點から見ると小地域に就いての環境要素は、大地域に就いてのそれよりも變化し易いことが明かであり、從つてその重要性は比較的に小さいと云はねばならぬ。

以上述べたやうな文化環境諸要素を、勞働對象・勞働手段・勞働力として綜合し、更にこれを自然環境に於ける諸要素と綜合する。以上には文化環境諸要素中の主要なるもののみに就いて述べたのだから實際の觀察に當つては、事實關係に基いて更に多數の要素を見出し、綜合をせねばならない。本稿に於ける文化環境の分析は甚しく不十分であつて、環境要素の主要なるもののみに就いて、多少の說明を試みて居るに過ぎないが、筆者としては自然環境に對して行つたやうな分析は、現在のところ文化環境に對してはなし得ないのである。

（昭和十三年四月二十四日）

爲替會社の沒落原因

伊東彌之助

一

日本の資本主義はその後進的性格から、先づ以て貨幣・金融制度の整備、交通機關の移植から初められた。既に周知の如く德川時代末期はその生產力の發展の結果として相當巨額の資本が蓄積され、階級の分化も著しく促進されてはゐたが、未だそれ自らの發展によつて封建社會を崩壞に導き、新しき社會の建設に乘り出し得ぬうち、先進資本主義諸國の來航を見た。而してその東漸帝國主義の壓迫が急速に日本封建社會の諸矛盾を表面に露呈させ、その崩壞と混亂の度を甚しくした。日本にあつてはその封建社會の崩壞は、勿論その內部よりの矛盾の激化も充分考慮さるべきではあるが、それにも增して海外資本主義との接觸こそ直接的原因を形成する。かくて急激なる崩壞よりもたらされた混沌たる狀勢のうちに明治新政府は成立した。然も依然、外國資本主義の監視下に成長せねばならなかつたといふ事情は、政府をして金融制度・交通機關の如き資本主義の外廓的整備から手を染めしめ、諸產業の保護・特權が次々にあたへられる事になつた。日本の如き後進資本主義國にとつては、政府による資本主義育成の强行をかく始めから必要とする。從つて日本の如き國の發展には政府の政策の變化が特に注目さるべきである。かく云へばとて、そ